

Challenge ～挑戦～

<「考えるPTA」をめざした2年間でした>

PTA 会長 笹本 貴之

いやあ～よく降りました！2月14日と15日の豪雪です。私にとって今年度の象徴的な出来事でした。

15日の朝、私は一面真っ白な光景を見て、しばし悩み、戸惑っていました。「こういうときは、まず家の周りからだな。やばい。お隣さんもう雪かき始めている。」正直、事の重大さには気づかず、世間体のようなことを気にして、まずは家の入口の確保のために雪かきを始め、隣近所の方々とも協力して表通りまで車の道をつくりました。そうこうするうちに、今回の雪が史上最大級の豪雪であること、交通がマヒして県全域が陸の孤島化してしまったことを知りました。

「なるほど、これは非常事態なんだな。よし、とりあえず家族の出入り口は確保した……。あれ？次は何すればいいんだっけ？」額の汗を拭きながら思っていると、妻が「ほら、こっちもやってやろうよ」と言って指差す方向を見ると、裏手の老夫婦の家の周りが手つかずでした。スコップをもう一度担いでそちらに進み、次に近くの商店街へ、表の交差点へ、三女が通う幼稚園へ……という具合に15日と16日が終わりました。「よし俺の役割は果たした！今日はビール飲んで早く寝よう！」……といきたいところでした。いいえ、2年前までの私なら確実にそうでした。しかし、どうもモヤモヤ気持ち悪かったです。

「何か忘れてる。そうだ！役割がもう一つあったんだ。」そう思ってもう一度スコップを担ぎ、向かった先は千塚小学校の校門でした。「やっぱり……。」学校周辺も先生方の駐車場も手つかずの美しい雪景色でした。「これじゃあ学校は始められない。」その場で副会長の塩谷さんに下の写真をメールして、次の日(17日)の雪かきを本部役員中心に呼びかけました。また、18日にもマメルメールを利用して、子どもたちの通学路の確保を呼びかけました。先生方はもちろん、たくさんの保護者のみなさんにご協力いただいたおかげで、甲府市内で千塚小だけは21日から通常の登校ができました。感謝しています。

私にとってこの豪雪は、「大人として、地域人として、PTAとして、職業人として、自らの役割は何か？」を考える強烈な機会でした。普段は「まずは大人が自ら……！」なんて偉そうな言いながら、今回のように、いざ災害にあったときの自分の焦りと躊躇に自己嫌悪の連続でした。それでも気を取り直して「そもそもPTAとは？」と考え、やっとの想いで起こした行動だったことを、自白します。これは、私にとって大きな学びであり、いま思うと楽しい日々でした。みなさんは如何でしたでしょうか？

今年度は、この「そもそも……」や「PTAとは？」を考える機会が2回ありました。メール事件による運動会の延期、そしてウィルス感染によるもちつき大会の中止です。もちろん何もなくスムーズに実施できるのがいちばんですが、そういかないときこそ、人は深く「考える」ことができるのだと思います。私は昨年「学校において保護者はお客さんじゃあない」と発言してきましたが、まさに運動会ではそのことが実感できたのではないのでしょうか。何よりも保護者の協力体制が大切でした。また、もちつき大会中止の議論は、「そもそももちつき大会は何のため？」「子どもに何を伝えたい？」など、私たち大人が最近やっていなかった「胸に手を当てて考える」機会だったなあ、と思っています。

保護者のみなさん、先生方、2年間お付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。楽しかったです。ピース！

